

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理概論		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		角知美
授 業 の 概 要				
タッチタイピングの習得 Excelの基礎知識				
授業終了時の到達目標				
・タッチタイピングを身につけ、速く正確にタイピングができる ・Excelの基礎知識を習得する ①セルに文字入力ができる ②表の作成ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
タッチタイピングの練習				
回	テ ー マ		内 容	
1	タイピング練習（ホームポジション）		タッチタイピングの練習法 ホームポジション タイピング練習-基礎編 （マイタイピング：タイピング練習講座） （マナビジョン：タイピング練習ホームポジション）	
2	いろいろな文字を入力しよう		ホームポジション・かな打・記号・アルファベット練習	
3	文章を打ってみよう1（Word）		特殊文字 変換前の訂正方法・変換後の訂正法を確認しましょう 文章入力	
4～5	文章を打ってみよう2（Word）		便利機能 単語の登録・IMEのパッドを使って文字入力 英文・漢詩・夏目漱石や芥川龍之介の名文を打ってみよう	
6	編集の機能を使って案内文を作成しよう（Word）		1 書式設定 文字数・行数の指定（文字数30 行数30） フォントの設定（日本語用を同じフォント） ・カーニングの設定を外す ・体裁の設定 ・オプション（標準・半角英数・間隔を詰めない） 2 案内文の作成 右揃え・中央・左揃え・フォントのサイズ 機能を設定する アンダーライン・フォントの種類・均等割付けの機能を使う 表の挿入（幅の広げ方・表の枠を増やす）	
7	Word案内文（復習） Excel入力		Word 案内文をつくろう（前回の復習課題） Excel 2019 1. 画面の構成 2. ワークシートにデータの入力 3. 数値データ入力 4. 文字列入力 5. データの消去 6. ファイルの保存と読み込み 7. データの印刷	

回	テ ー マ	内 容		
8～ 9	ワークシートの編集 (Excel)	1. セルの挿入・削除 2. セルの移動・コピー 3. データの修正 4. 連続データの入力 (番号・曜日)		
10	Excel : グラフの作成、グラフの設定の変更	棒グラフ、円グラフの作成 系列の変更、数値軸目盛の変更、グラフの種類の変更、データ系列の書式設定、軸ラベルの設定、データラベルの設定、フォントの変更		
11	Excel : オートSUMの利用	大値・最小値 (MAX・MIN) 平均 (AVERAGE) 数値の個数 (COUNT) 四捨五入 (ROUND)		
12	Excel : オート関数の利用	判定 (IF) 成績グラフ作成		
13～ 14	Excel : データの一覧表を作成	歯科医院患者管理 データ入力 罹患率データー DMF指数のデータ作成		
15	確認テスト	タッチタイピングテスト Excel基本操作テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
30時間でマスターWord&Excel2019		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生物学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		福原里奈
授 業 の 概 要				
一般教養としての生物学を学ぶとともに、国家試験の生理学分野の内容も含めていく。				
授業終了時の到達目標				
一般教養としての生物学について基礎知識が身につく。 国家試験科目の生理学の内容と重なっている部分を解けるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
・主体的に授業に参加し学習する。				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	生物学の授業進行について 学生の自己紹介 Ⅰ－1章 生命とは何か		1年間で学ぶことについて 生命をつくっている物質について	
2	Ⅰ－2章 生命の誕生 Ⅰ－3章 生命の変換		どのようにして生物は生まれたか 生物の進化について	
3	Ⅱ－1章 生物は細胞からできている		細胞小器官とその活動	
4	Ⅱ－2章 細胞の一生と個体の成り立ち		細胞と組織・器官	
5	Ⅲ－1章 生殖によって子孫をつくる Ⅲ－2章 遺伝と遺伝子		生殖と減数分裂 遺伝の法則とDNA	
6	Ⅲ－2章 遺伝と遺伝子 Ⅲ－3章 発生して体をつくる		遺伝の法則とDNA 発生の過程と仕組み	
7	Ⅳ－1章 刺激の受容と反応 Ⅳ－2章 内部環境を保つ仕組み		神経と刺激の伝達 体液・ホルモン・自律神経	
8	Ⅳ－3章 動物の行動 期末テスト		本能と習得的行動 期末テスト 学んできたことの総まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 生物学 オリジナルプリント			期末試験	100.0%
				・主体的に授業に参加し学習する。 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
外国語	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		高橋栄子
授 業 の 概 要			
1. 基本的日常会話能力（リスニング、スピーキング）の養成 2. 歯科衛生士業務の際の英会話を理解し習得させる 3. 基礎的な文中の文法を理解させる 4. 西洋諸国の多様な文化、風習、マナーの相違等への理解を深める 5. ペアによる英会話練習により実践力を向上させる 6. 歯科衛生士にとって興味深い読み物を英語で読んでみる			
授業終了時の到達目標			
1. 英語を話すことに対する抵抗感をなくする 2. 基本会話を習得するとともに外国への関心を高め、理解を深める 3. 歯科衛生士業務に必要な基礎英語力を習得する			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
テキストの予習、復習。学習した単語を覚える。テキストの音読練習。			
回	テ ー マ	内 容	
1	基本の英会話1 歯科英語テキスト1 Making an appointment by telephone	プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での歯科医院における電話予約の学習、練習。	
2	基本の英会話2 歯科英語テキスト2 Request for medicine	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って、英語での薬のリクエストについて学習、練習。	
3	基本の英会話3 歯科英語テキスト3 Emergency appointment	回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って、英語での緊急予約について学習、練習。	
4	基本の英会話4 歯科英語テキスト4 National health insurance	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での国民健康保険についての説明、練習。	
5	基本の英会話5 歯科英語テキスト5 Asking Patient to describe symptoms	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語で患者さんに症状を聞く学習、練習。	
6	基本の英会話6 歯科英語テキスト6 Asking the medical history	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での患者さんに対してメディカルヒストリーの聞き方について学習、練習。	
7	基本の英会話7 歯科英語テキスト7 Periodontal disease	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での歯周病について学習、練習。	
8	基本の英会話8 歯科英語テキスト8 Pregnancy	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での妊娠中の歯科治療および口腔衛生について学習、練習。	
9	基本の英会話9 歯科英語テキスト9 Do I need a cleaning?	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での定期的な歯科医院でのクリーニングの重要性の説明の学習、練習。	
10	基本の英会話10 歯科英語テキスト10 Informed consent	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのインフォームドコンセントの学習、練習。科学的英語の読み物。	

回	テ ー マ	内 容		
11	基本の英会話11 歯科英語テキスト11 Sealant	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのシーラントの説明の学習、練習。科学的英語の読み物。		
12	基本の英会話12 歯科英語テキスト12 Fluoride treatment	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのフッ素トリートメントの説明について学習、練習。		
13	基本の英会話13 歯科英語テキスト13 Tooth brushing instructions for a child	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での子どもに対する歯みがき指導について学習、練習。		
14	基本の英会話14 歯科英語テキスト14 Tooth brushing instructions for an adult	前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での大人に対する歯磨き指導、治療終了後の説明について学習、練習。		
15	学年末テスト	学年末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科英語 医歯薬出版株式会社		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	レポート提出で成績に加味することもあり。

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
接客マナー	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		川城美智子
授 業 の 概 要			
1. 本学科の目指す「高い技術を身につけた歯科衛生士」にふさわしい社会人基礎力および接客力を、知識の習得と実践的学習を通して養う。 2. サービス接客検定3級の全員取得を目標とし、検定範囲に沿って学習を進める。			
授業終了時の到達目標			
1. サービス接客検定3級（試験日2027年2月13日）の全員取得を目指す。 （試験合格水準の目安とし、過去問60%以上取得レベルに到達している。） 2. 医療現場はもとより、幅広い社会で求められる社会人基礎力および接客力を、知識と実践の両面から習得する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
・試験日は授業終了後となるため、計画的に自宅学修の時間を確保し、合格に向けた準備を行う。 ・将来の社会人生活を見据え、ビジネスマナーが求められる場面を想定し、自身の役割や立場を意識しながら継続的に考察する習慣を身につける。			
回	テ ー マ	内 容	
1	オリエンテーション 目標設定と事前理解	1) Goal設定、試験対策キックオフ 2) 試験内容の把握、過去問による自己理解	
2	検定試験構成：サービススタッフの資質	接客に必要な資質と行動の基本を通じ、信頼される社会人の姿勢を学び、身につける。	
3	検定試験構成：専門知識	サービスの意義・機能・種類、商業・経済用語を習得し、円滑な業務遂行を支える知識を養う。	
4	検定試験構成：一般知識	社会常識や時事問題への理解を通じ、接客者に求められる視野を養う。	
5	検定試験構成：対人技術	身だしなみや話し方、提示・説明、対人心理を学び、信頼を築く対人力を養う。	
6	医療現場における言葉づかいと接客表現	適切な言葉づかい（敬語、クッション言葉等）を理解し、医療現場の接客場面での実践的な表現力を習得する	
7	検定試験構成：実務技能	問題処理や環境整備、金品管理など基本的な実務技能を学び、業務対応力を養う。	
8～9	検定対策	各項目の振り返りと確認。 ビジネス接客検定過去問題を解き、解説する。	
10	印象を磨く：言葉とふるまいの実践トレーニング	印象を高める挨拶、お声がけ、立居振る舞いの実践。 仕事を進める力として、時間管理や協働の知識を養う。	
11	基本スキルを磨く：電話応対、ご案内	現場で必要な業務遂行力を高める。	
12	①検定試験レベルの算定（1回目） ②実践力の向上トレーニング	①試験合格水準の目安（正答率60%以上）レベルの確認。 ②実践の反復トレーニング	
13	ヒアリング力を高める：コミュニケーションの土台を築く	自己理解と他者理解を通じながら、自身のヒアリング力や対話力をレベルアップさせる。	
14	①検定試験レベルの算定（2回目） ②実践力の向上トレーニング	①試験合格水準の目安（正答率60%以上）レベルの確認。 ②実践の反復トレーニング	
15	期末試験	授業の総まとめとして、期末試験を実施する。	
教科書・教材		評価基準	評価率
サービス接客検定3級 公式テキスト等		課題・レポート 確認テスト 期末試験	40.0% 30.0% 30.0%
		その他	
		【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		江口 覚
授 業 の 概 要			
人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。			
授業終了時の到達目標			
人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官どのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する			
回	テ ー マ	内 容	
1～2	細胞と組織、骨格系	細胞（細胞の構造と機能）、組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）骨格系概説（骨の機能、骨の構造、骨の形態、骨の連結、体の部位による骨の分類）、骨の発生、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨	
3～4	筋と運動	筋の形状と分類、筋の構造と機能、体の各部位の筋系（頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋）、運動（運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節）、筋電図	
5～6	消化と吸収	消化器の構造（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）	
7～8	循環	血管の構造、心臓（心臓の位置と形態、心臓の内部構造、心臓壁の構造、心臓の血管、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系（リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓）	
9	神経系	神経系の構成、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路	
10	神経系	神経系の構成、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路	
11	呼吸	呼吸、呼吸器の構成（上気道、下気道・肺）、胸郭の構造	
12	感覚	外皮（皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置）、特殊感覚器の構造（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）	
13	排泄	排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）	
14	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体	
15	生殖 確認テスト	男性生殖器、女性生殖器 確認テスト	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）	確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
組織・発生学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		松澤鎮史
授 業 の 概 要				
組織と発生について 顔面と口腔の発生について 歯および歯周組織の発生と組織学的特徴について				
授業終了時の到達目標				
人体の骨格をなす組織とその発生について理解を深める 顔面と口腔の発生について学ぶことで、口腔内に発生する疾患を理解するための礎を築く 歯と歯周組織の組織学的特徴の理解を深める				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	細胞		細胞、細胞膜、細胞質、核の機能 細胞内小器官、細胞の増殖と寿命	
2	上皮組織と支持組織		上皮組織・支持組織	
3	発生		染色体と減数分裂、精子・卵子、受精と着床 胚葉の形成、胎児の成長	
4	歯および歯周組織の構造と機能①		エナメル質、象牙質・歯髄複合体	
5	歯および歯周組織の構造と機能②		セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉	
6	顔面と口腔の発生		顔面、口腔、口蓋、口唇、舌、腺の発生	
7	歯と歯周組織の発生		エナメル質、象牙質、セメント質の発生 歯の萌出過程と歯の交換	
8	確認テスト		確認テスト	
教科書・教材			評価基準	評価率
歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版株式会社） 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版株式会社）			期末試験	100.0%
				その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
生理学	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		江口 覚
授 業 の 概 要			
人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。			
授業終了時の到達目標			
人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する			
回	テ ー マ	内 容	
1	筋と運動	筋の構造と機能（頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋）、運動（運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節）、筋電図	
2	消化と吸収	消化と吸収の意義（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）、口腔での消化、胃の機能（胃の運動、胃液）、小腸の機能（小腸の消化液、小腸の運動、腸での吸収）、大腸の機能（大腸での吸収、大腸の運動、排便反射）	
3	循環	血管の機能（血圧、血液量の調節、血圧の調節、ショック）、血液（血液の成分、血液の機能、血液の凝固と溶解、血液型と輸血）、心臓（心臓の拍動のコントロール、心臓の活動電位と心電図）、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系（リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓）	
4	神経系	中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能）、脳脊髄膜（硬膜、クモ膜、軟膜）、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路	
5	呼吸	胸郭の構造と換気の仕組み、肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換、血液中のO2とCO2の運搬	
6	感覚	感覚の基本的性質、体性・内臓感覚（皮膚の感覚、内臓の感覚、痛覚）、外皮（皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置）、-特殊感覚器の構造と機能（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）	
7	排泄・体温	排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）、体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動	
8	内分泌・生殖 確認テスト	内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、血中カルシウム濃度の調節、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体、歯とホルモン、男性生殖器、女性生殖器、性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌	

回	テ ー マ	内 容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）		確認テスト	20.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する
		期末試験	80.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔解剖学Ⅰ	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		宮本洋二
授 業 の 概 要			
顔面、口腔、頸部の構造を概説する。その中で、同部の筋肉、骨、神経脈管の分布とともに、唾液腺や咽頭、喉頭の構造、嚥下運動について説明する。できる限り臨床の病態、疾患との関連も説明する。 さらに、歯列と咬合についても概説する。歯科衛生士の臨床に必要な解剖を習得して貰いたい。 【教科書範囲：P2～71、128～134】			
授業終了時の到達目標			
・口腔の解剖学的名称を理解する。 ・口腔の構成する骨を説明できる。 ・頭頸部の筋の部位、機能を説明できる。 ・顎関節の構造を理解し、関節円盤と顎関節症との関係を説明できる。 ・頭頸部に分布する脈管、神経、リンパの位置、機能を説明できる。 ・唾液腺の位置、構造を説明できる。 ・咽頭、喉頭の構造と嚥下を説明できる。 ・歯列と咬合を分類・様式を説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
毎回、前回の講義の確認テストを行うので、授業の復習をする。			
回	テ ー マ	内 容	
1	口腔とは(1)	口腔とその周囲の表面、口腔前庭、口腔の機能、口唇口蓋裂の病態	
2	口腔とは(2)	固有口腔、歯周病の病態、口腔がんの鑑別法	
3	口腔を構成する骨(1)	頭蓋を形成する骨、顔面骨折の病態	
4	口腔を構成する骨(2)	口腔を形成する骨、顎変形症との関連	
5	頭頸部の筋(1)	顔面筋（表情筋）、咀嚼筋、開口障害の病態、咀嚼筋腱・腱膜過形成症の病態、顎関節症の咀嚼筋障害の病態	
6	頭頸部の筋(2)	頸部の筋、顎下三角・オトガイ三角、組織隙、口腔膿瘍・蜂窩識炎との関連	
7	顎関節	顎関節の構造と機能、顎関節症との関連	
8	口腔周囲の脈管(1)	動脈系、口腔内出血に対する止血との関連	
9	口腔周囲の脈管(2)	静脈系、リンパ流、リンパ節、扁桃、口腔がんの転移との関連	
10	神経(1)	脳神経を含む神経学概論、三叉神経、顔面神経、神経痛・神経麻痺との関連	
11	神経(2)	舌咽神経、迷走神経、舌下神経、頭頸部に分布する脊髄神経・自律神経	
12	唾液腺	小唾液腺、大唾液腺の構造と機能、唾石症などの唾液腺疾患との関連	
13	咽頭、喉頭と食道	咽頭・喉頭・食道の構造、嚥下に関与する筋、嚥下障害の病態	

回	テ ー マ	内 容		
14	歯列と咬合	歯列弓、咬合湾曲、咬合の型、下顎位、矯正学的分類、顎矯正手術との関連		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医 歯薬学出版 ・ 配布プリント		確認テスト 期末試験	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔解剖学Ⅱ		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		松香芳三
授 業 の 概 要				
歯科衛生士として歯の形態を立体的に学ぶことは非常に重要である。特に、口腔内で見えない歯根の形態を理解することは適切なスケーリングを行う際に必須の知識となる。本授業を通して、学生は歯の形態を理解する。				
授業終了時の到達目標				
教科書や配布資料、拡大模型を参考にして、歯のスケッチができる。歯の解剖学的名称を説明できる。石膏棒を彫刻するための器具を正しく安全に使用できる。石膏棒を彫刻することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
教科書を熟読すること、時間内に終了しなかった歯型彫刻を進めること				
回	テ ー マ		内 容	
1	歯の形態・名称		上顎右側中切歯と上顎右側第一大臼歯のスケッチ	
2	歯型彫刻		上顎右側中切歯の歯型彫刻	
3	歯型彫刻		上顎右側中切歯の歯型彫刻	
4	歯型彫刻		上顎右側中切歯ならびに上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	
5	歯型彫刻		上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	
6	歯型彫刻		上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	
7	歯型彫刻		上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	
8	実習試験		歯の形態の理解を問う	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本			期末試験	50.0%
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能			実習・実技評価	40.0%
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			課題・レポート	10.0%
			その他	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		松澤鎮史
授 業 の 概 要				
全身および口腔の疾病の原因、発生機序、転帰を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
疾患の原因、経過と転帰を理解し説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	1章 病理学序論と病因論 2章 遺伝性疾患と奇形		病理学とは、内因と外因 先天異常、奇形の発生と病因	
2	3章 循環障害		さまざまな循環障害	
3	4章 代謝障害と退行性病変		代謝障害、退行性病変（変性・萎縮・壊死）	
4	5章 代謝障害と退行性病変		進行性病変（増生・肥大・化生）、再生と修復	
5	6章 炎症と免疫応答異常		炎症、免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患	
6	7章 腫瘍		上皮性・非上皮性腫瘍、良性・悪性腫瘍	
7	1章 歯の発育異常		さまざまな原因で生じる歯の異常	
8	2章 歯の損傷と着色・付着物 3章 う蝕		咬耗・摩耗/う蝕の病態	
9	4章 象牙質・歯髄複合体の病態		歯髄炎・象牙質知覚過敏症	
10	5章 歯周組織の病態		根尖部歯周組織の病態、辺縁部歯周組織の病態	
11	6章 口腔粘膜の病変		口腔粘膜の特徴、ウイルス感染	
12	7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 8章 口腔癌		原性・非歯原性の嚢胞および腫瘍/ 口腔潜在的悪性疾患と口腔癌	
13	9章 顎骨の病変 10章 唾液腺の病変		骨髄炎/良性・悪性唾液腺腫瘍など	
14	11章 口腔領域の奇形（形成異常） 12章 口腔組織の加齢変化		奇形症候群/加齢変化	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学（医歯薬出版株式会社）		期末試験	100.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
微生物学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		廣島佑香
授 業 の 概 要				
口腔領域および全身の感染症の原因となる微生物の種類、構造、病原性について学習する。 口腔微生物学では、口腔微生物の病原性とそれに対する宿主の防御機構、全身疾患との関連性について学ぶ。 病原微生物学では、感染症を引き起こす代表的な病原微生物の性質や発生のメカニズムなどについて学ぶとともに、感染症に対する宿主の防御機構（免疫）とアレルギーについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
学んだ知識を実際の診療、予防処置に応用できるようにする。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
各回の重要なキーワードの復習、次回の予習				
回	テ ー マ		内 容	
1	I 編 微生物学 微生物学の概要、感染		微生物の種類と性質 感染の成立 感染の種類	
2	I 編 微生物学 微生物学総論		微生物の形態 構造 病原因子	
3	I 編 微生物学 微生物学総論 微生物の培養、観察と検査		微生物の形態、構造、病原因子 微生物の培養法、顕微鏡観察法、検査方法	
4	I 編 微生物学 化学療法		主な化学療法薬の種類と特徴	
5	I 編 微生物学 消毒と滅菌		主な消毒法と滅菌法 標準予防策	
6	II 編 口腔微生物学 口腔環境と常在微生物		微生物と口腔環境 口腔常在微生物	
7	II 編 口腔微生物学 バイオフィルムとしてのプラーク		プラーク形成機序と成熟 バイオフィルム感染症	
8	II 編 口腔微生物学 う蝕の細菌学		う蝕の発生機序 う蝕原性細菌と病原因子	
9	II 編 口腔微生物学 歯周病の細菌学 その他の口腔感染症		歯周病原細菌と病原因子 その他の口腔感染症	
10	III編 病原微生物学 主な病原細菌		グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌 グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌、スピロヘータ マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア	
11	III編 病原微生物学 歯科に関連するウイルス		歯科に関連するウイルスとウイルス感染症	

回	テ ー マ	内 容		
12	Ⅲ編 病原微生物学 真菌、 原虫、プリオン	歯科に関連する真菌 、 原虫、プリオン		
13	Ⅳ編 免疫学 免疫	免疫の仕組み、生体バリア機構、自然免疫、抗原提示、獲得免疫		
14	Ⅳ編 免疫学 アレルギー	ワクチン、アレルギー		
15	期末テスト	期末テスト 顕微鏡で細菌観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版 (全国歯科衛生士教育協議会 監修) (医歯薬出版)		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
薬理学		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		水澤典子
授 業 の 概 要				
薬理学は基礎医歯学(生理学、生化学、病理学、解剖学、微生物学など)から臨床への繋がりとなる学問です。先に習得した基礎医歯学分野の知識を薬理学でも復習しながら、ヒトの身体の恒常性を保つために有効な薬物の種類と作用について学びます。これにより、歯科医療の現場に必要で日ごろの健康管理にも役立つ、薬の基礎知識を習得します。				
授業終了時の到達目標				
1. 薬物の正しい取り扱い、使用法を説明できる。 2. 歯科ではつかわない薬物も含め服薬指導の考え方を説明できる。 3. 教科書付章「覚えておきたい80の薬物」について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
教科書を読む。他の参考書も探す。				
回	テ ー マ		内 容	
1	(薬理学総論) 1章 薬物の作用 3章 薬物の適用方法の種類と特徴 7章 薬物の取扱い 8章 薬物と法律、医薬品開発		医薬品とは何か、医薬品開発や法令について学ぶ 薬機法、日本薬局方、麻薬及び向精神薬取締法、劇物及び毒物取締法、PMDAによる承認審査と健康被害救済	
2	(薬理学総論) 2章 薬物動態 4章 薬物の作用に影響を与える要因 5章 薬物の副作用、有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意		薬物の役割と、一般的な作用機序、有害な副作用について学ぶ 経口投与とその他の方法の違いと特徴、副作用と有害作用の原因、ポリファーマシーとは	
3	(薬理学各論) 1章 ビタミンとホルモン 2章 末梢神経系		自律神経を制御するアドレナリンとノルアドレナリン、さらにアセチルコリンを中心に、臓器への作用機序を学ぶ	
4	(薬理学各論) 3章 中枢神経系に作用する薬物		全身麻酔薬、睡眠薬、てんかんの治療薬、向精神薬、パーキンソン病治療薬、認知症治療薬について学ぶ GABA _a 受容体作動薬のベンゾジアゼピン系薬物のほか、各疾患に特徴的な薬物各種	
5	(薬理学各論) 4章 循環器系 5章 腎臓		高血圧の治療薬を学ぶ 高血圧の第一選択薬は、カルシウム拮抗薬、ACE阻害薬、ARB、利尿薬の4つ	
6	(薬理学各論) 1章 ビタミンとホルモン 11章 代謝性疾患治療薬		脂質代謝異常症、糖尿病、骨粗しょう症の治療薬を学ぶ 高コレステロール血症治療のスタチン系、2型糖尿病の経口治療薬、骨粗鬆症にはビタミン系とホルモン系のほか新薬の各種	
7	(薬理学各論) 9章 免疫と薬 10章 悪性腫瘍と薬		免疫不全症の治療薬、アレルギーの治療薬、癌の治療薬を学ぶ 癌と免疫の関係に着目した新薬も含めた治療薬	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
8	(薬理学各論) 12章　炎症と薬 13章　痛みと薬 14章　局所麻酔薬	痛み止めの種類と作用機序を学ぶ ステロイド薬と非ステロイド薬(NSAIDs)の有効性と副作用 局所麻酔薬は分類と添加物の意義		
9	(薬理学各論) 8章　血液	止血薬、血栓症の治療薬を学ぶ 血液凝固の仕組みと局所・全身止血薬、血液サラサラの薬（抗血栓薬と抗凝固薬）		
10	(薬理学各論) 15章　抗感染症薬	抗菌薬、抗真菌薬、抗ウィルス薬を学ぶ 微生物の分類確認と、歯科で用いられるベータラクタム系(ペニシリン系、セフェム系)の特徴		
11	(薬理学各論) 6章　呼吸器系 7章　消化器系	喘息の治療薬、胃炎の治療薬を学ぶ 気管支を広げる薬物、胃酸分泌と腸管運動に有効な薬物		
12	(薬理学各論) 16章　消毒に使用する薬 17章　う蝕予防薬	消毒薬と、う蝕予防のための方法を学ぶ 消毒薬の使い分け フッ化物の有効性と毒性		
13	(薬理学各論) 18章　歯内療法薬 19章　歯周疾患治療薬	歯内療法と歯周療法に用いられる薬物を学ぶ 歯髄保存や根管治療の製剤、プラークコントロールの重要性、口臭予防		
14	(薬理学各論) 20章　顎・口腔粘膜疾患と薬 21章　漢方医学と薬物	口内炎の治療薬、歯科で保険適用になった漢方薬を学ぶ 歯性感染症の分類と、口腔乾燥症や顎関節症も含めた治療薬、漢方薬の適用		
15	ふりかえり期末試験	歯科衛生士国家試験に向けた薬理学分野の知識の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学第2版（医歯薬出版株式会社）		出席率 確認テスト 期末試験	5.0% 35.0% 60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
健康		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義	
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位（15時間）		必須		川村久恵	
授 業 の 概 要					
全身疾患（代謝・内分泌、消化器、循環器、血液、呼吸器、腎・泌尿器、免疫、感染、神経、精神、がん、産科・婦人科）についての基礎知識と歯科診療における注意点					
授業終了時の到達目標					
全身疾患について基礎知識を習得する。 歯科診療におけるポイントが理解できる。					
実務経験有無		実務経験内容			
時間外に必要な学修					
授業の復習					
回	テ ー マ		内 容		
1	①全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 ②代謝・内分泌疾患 ③消化器疾患		糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、胃食道逆流症、胃炎・胃癌、胃・十二指腸潰瘍、肝炎・肝硬変		
2	①循環器疾患 ②血液疾患		心疾患・不整脈、高血圧・低血圧、貧血、白血病、血友病		
3	①呼吸器疾患 ②腎・泌尿器疾患		肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、結核、睡眠時無呼吸症候群、腎疾患		
4	①免疫疾患・膠原病 ②感染症		アレルギー、膠原病、シェーグレン症候群、アトピー性皮膚炎、インフルエンザ、カンジダ症、後天性免疫不全		
5	①神経疾患 ②精神疾患		心身症・神経症、うつ病、統合失調症、発達障害		
6	①がん ②妊娠、産科・婦人科疾患		がん、頭頸部がん、妊娠による身体の変化、更年期障害		
7	①知っておきたい検査値一覧 ②各種モニター・バイタルサインの見方について ③救命救急について		教科書160ページ～172ページ		
8	まとめ 期末試験		まとめ 期末テスト		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
歯科衛生士生のための全身疾患ハンドブック 医歯薬出版株式会社			期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔衛生学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		北村敏永
授 業 の 概 要				
1. 口腔の健康および口腔保健の理解 2. 歯・口腔組織および口腔関連疾患（う蝕・歯周病・その他関連疾患）の理解 3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法の理解				
授業終了時の到達目標				
1. 口腔の健康および口腔保健に関する基礎的な知識の習得 2. 歯・口腔組織の基礎的な知識および口腔関連疾患（う蝕・歯周病・その他関連疾患）に関する基礎的な知識の習得 3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法に関する基礎的な知識の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 歯・口腔の健康と歯・口腔組織の基礎		1) 歯・口腔の健康 2) 歯・口腔の構造と発生 3) 歯・口腔の成長と発育	
2	2. 歯・口腔の機能と全身の健康、付着物		1) 摂食・咀嚼・嚥下 2) 口腔の健康と全身の健康	
3	3. 歯科疾患の基礎		う蝕と歯周病および口腔関連疾患の特性 1) う蝕のメカニズム 2) う蝕の予防法と治療法	
4	4. 口腔清掃		1) 口腔清掃法	
5	5. う蝕予防基礎礎		1) う蝕メカニズムと予防法および治療法	
6	6. フッ化物によるう蝕予防基礎礎		1) フッ化物の特性 2) フッ化物応用によるう蝕予防とそのメカニズム	
7	7. 歯周疾患予防の基礎		1) 歯周組織の構造 2) 歯周疾患の種類と原因およびリスクファクター 3) 歯周疾患の全身への影響 4) 歯周疾患の予防法とその治療法 5) 歯周定期管理の重要性	
8	その他の疾患・異常の予防		1) 口内炎・口腔癌の実態と予防 2) 不正咬合の実態と予防 3) 顎関節症の実態と予防 4) その他疾患の実態と予防	
教科書・教材			評価基準	評価率
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学			期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%
				【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学Ⅰ	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		川村久恵
授 業 の 概 要			
Ⅰ．健康を左右する環境について Ⅱ．健康に関わる地域の役割			
授業終了時の到達目標			
1．健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力が高めることができる。 2．生活と健康にかかわる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高めることができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
予習復習を行う			
回	テ ー マ	内 容	
1	Ⅰ 健康を左右する環境① 1章 総論	保健生態学とは 健康・予防医学の概念	
2	Ⅰ 健康を左右する環境② 3章 人口	人口の動向 人口動態統計と生命表	
3	Ⅰ 健康を左右する環境③ 4章 健康と環境	環境の概念 空気・水・放射線・住居・衣服と健康および影響	
4	Ⅰ 健康を左右する環境④ 5章 感染症	感染症の成り立ちと予防 主な感染症の動向	
5	Ⅰ 健康を左右する環境⑤ 6章 食品と健康	食品保健 栄養と健康	
6	Ⅲ健康にかかわる地域の役割① 1章 地域保健・公衆衛生（1）	地域社会と地域保健の概念 地域保健の組織、地域保健の新たな概念	
7	Ⅲ健康にかかわる地域の役割② 1章 地域保健・公衆衛生（2）	地域保健活動のすすめ方 健康づくり対策と地域歯科保健	
8	まとめ・復習 後期末試験	1～7回までのまとめ・復習 期末試験 後評	
教科書・教材		評価基準	評価率
保健生態学（医歯薬出版株式会社） わかりやすい公衆衛生学（ヌーベルヒロカワ） 国民衛生の動向		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学Ⅱ	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		川村久恵
授 業 の 概 要			
Ⅰ．健康を左右する環境 Ⅱ．健康に関わる地域の役割			
授業終了時の到達目標			
1．生活と健康にかかわる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高めることができる。 2．健康に関連した状況や出来事の集団内の分布や決定因子を研究する方法がわかる			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する			
回	テ ー マ	内 容	
1	Ⅲ健康にかかわる地域の役割③ 2章 母子保健	母子保健の目的および概要、現状と今後 歯・口腔について	
2	Ⅲ健康にかかわる地域の役割④ 3章学校保健	学校保健の意義および概要、活動と組織 学校歯科保健	
3	Ⅲ健康にかかわる地域の役割⑤ 4章 成人保健	成人保健の意義と特徴、活動の現状 成人保健対策、成人期の歯科保健	
4	Ⅲ健康にかかわる地域の役割⑥ 5章 産業保健	産業保健の概念および活動 職業性疾病と産業保健管理	
5	Ⅲ健康にかかわる地域の役割⑦ 6章 高齢者保健・7章 精神保健	高齢者保健の意義および行政関係法 精神保健の現状、精神障がい者の歯科保健	
6	Ⅲ健康にかかわる地域の役割⑧ 8章災害時の歯科保健・9章国際保健	災害時の保健医療対策と歯科保健活動 WHO・JICAの活動、世界の歯科保健の状況と戦略	
7	Ⅰ健康を左右する環境⑦ 2章 疫学 1から7までのまとめ	疫学の定義と研究方法 臨床疫学 1から7回までのまとめ	
8	期末テスト	学んだ内容の理解を図る	
教科書・教材		評価基準	評価率
保健生態学（医歯薬出版株式会社）		期末試験	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
栄養指導・生化学		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		佐藤優子
授 業 の 概 要				
1. 生化学を学び、その知識をもとに栄養学を理解させる 2. 体内のエネルギー代謝や物質代謝を理解させる 3. 歯、唾液、う蝕等を生化学的に学ぶ 4. 栄養学を学ぶ意義、各栄養素の働きを理解させる 5. 望ましい食生活、ライフスタイルを理解させる				
授業終了時の到達目標				
1. 歯科衛生士として必要な生化学、栄養学の知識を習得する 2. 歯科衛生士として栄養指導することができるよう深い知識を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて教科書、配布プリントを用いて予習する。 確認テストなどは再度目を通し復習をしておく。				
回	テ ー マ		内 容	
1	栄養学と歯科衛生士		人体の構成要素（細胞の役割） 生体構成成分と栄養素 歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義	
2	栄養素の種類とはたらき 1		糖質 脂質 タンパク質 ビタミン ミネラル 食物繊維	
3	栄養素の種類とはたらき 2 栄養素の代謝		エネルギー代謝の全体像 糖質の代謝とエネルギーの生成 脂質の代謝とエネルギーの生成	
4	栄養素の消化・吸収		各栄養素の消化吸収のメカニズムについて	
5	生体における恒常性の維持		恒常性とは ホルモン系と自律神経系	
6	歯と歯周組織の生化学 歯組織の生化学		歯と歯周組織血清中のカルシウムとリン酸 石灰化の仕組み 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化	
7	唾液の生化学 プラークの生化学		唾液の組織と機能 プラークについて	
8	健康と栄養		食生活を取り巻く施策	
9	食事と食品 1		食事の基本 食事バランスガイド 食品群とその分類	

回	テ ー マ	内 容		
10	食事と食品 2	食品の機能 食品の表示 食品の調理		
11	ライフステージと栄養 1	妊娠期 授乳期 乳幼児における栄養		
12	ライフステージと栄養 2	幼児期 学童期 思春期 成人期における栄養		
13	ライフステージと栄養 3	高齢期		
14	栄養ケアマネジメント	チームアプローチと栄養ケアマネジメント		
15	日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 3 栄 養学 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 3 生 化学・口腔生化学		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%	【準備学習】次回の 授業内容を踏まえて 教科書、プリントを 用いて予習する。

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科衛生士概論	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		井口和美
授 業 の 概 要			
・ 歯科衛生士の定義を学び口腔衛生管理における歯科衛生士の役割、また、歯科衛生士の歴史と経緯、現代までの教育の流れを学ぶ。 ・ 歯科衛生と健康の関係を学び、生活習慣と口腔について考えていく。 ・ 歯科衛生士法と法規について。 ・ 歯科衛生業務における、倫理の必要性・倫理要綱を学ぶ。 ・ 災害時における歯科衛生活動の重要性や災害への備えについて学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
1 歯科衛生学の定義を述べることができる。 2 歯科衛生士の誕生について概要を説明できる。 3 歯科衛生と健康の関係を説明できる。 4 歯科衛生士の業務独占と名称独占を説明できる。 5 歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる。 6 理論的思考について説明できる。 7 安全管理の必要性を説明できる。 8 災害時の歯科衛生士の役割を説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。			
回	テ ー マ	内 容	
1	・ 歯科衛生学とは	・ 歯科衛生の定義 ・ 口腔衛生管理 ・ 歯科衛生実践	
2	・ 歯科衛生の歴史と現状	・ 歯科衛生の誕生と経緯 ・ 歯科衛生士の養成教育 ・ 歯科衛生実践の現状	
3	・ 歯科衛生と健康	健康の考え方 口腔の健康が与える重要性の認識と歴史的な決議と行動計画 健康日本21 生活習慣と健康	
4	・ 歯科衛生士法と関係する法規	・ 歯科衛生士法の位置づけ ・ 歯科衛生士法の目的・業務 ・ 関係法規 ・ 法的責任と制度	
5	・ 歯科衛生士と倫理	・ 倫理の必要性 ・ 医の倫理と患者の権利 ・ 患者の自己決定権 ・ 歯科衛生士の倫理要綱の必要性	
6	歯科衛生実践のための倫理	・ 理論の考え方と活用法 ・ 批判的思考 ・ EBM・NBM ・ ICF（国際的生活機能分類）	

回	テ ー マ	内 容		
7	健康行動に関する信念モデル 保健・医療・福祉の制度と多職種連携	・健康信念モデル ・プリシード・プロシードモデル ・自己効力感・動機づけ面接 ・医療保険制度 ・地域包括ケアシステム		
8	医療安全確保における歯科衛生士の役割 災害時における歯科衛生活動	・医療安全に関する法律 ・我が国の災害と歯科 ・災害時の歯科保健活動 ・災害への備え		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科衛生学概論（医歯薬出版）		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
職業倫理学	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		四宮直子
授 業 の 概 要			
1. なぜ医療倫理学を学ぶのか 2. 医療倫理に関する規範とバイオエシックス 3. インフォームドコンセント 4. 研究と医療倫理 5. 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 6. その他歯科医療従事者に必要とされること 7. 医療倫理に関連する規範と法令 8. ケーススタディ			
授業終了時の到達目標			
・ 歯科衛生士として必要な倫理観を説明出来る ・ インフォームド・コンセントの定義と重要性が説明できる ・ セカンドオピニオンの定義と重要性が説明できる ・ 患者の権利が説明できる ・ 患者理解のためのコミュニケーション技術を理解する			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
日頃から医療倫理に関するニュースに関心を持ち、専門職としての視点を養うよう努めること			
回	テ ー マ	内 容	
1	なぜ医療倫理を学ぶのか	・ 伝統的な医の倫理から新しい医の倫理へ ・ 医療従事者の基本的義務 ・ 患者中心の医療 ・ 歯科医療に関する権利と義務、および歯科衛生士の社会的使命	
2	医療倫理に関する規範とバイオエシックス	・ 医の倫理に関する規範および国際規範 ・ バイオエシックス（生命倫理学） ・ バイオエシックスに関わる問題	
3	医療倫理に関する規範とバイオエシックス	・ バイオエシックスに関わる問題 ・ 臨床倫理学	
4	インフォームド・コンセント	・ インフォームド・コンセントとは何か ・ インフォームド・コンセントの実際 ・ インフォームド・コンセントと患者中心の医療	
5	研究と医療倫理	・ なぜ、研究で医療倫理が必要なのか ・ 倫理的配慮の要件 ・ 研究への協力依頼	
6	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	・ 医療現場における人の行動 ・ 患者の行動 ・ 歯科医療従事者の行動	
7	その他歯科医療従事者に必要とされること ・ その他歯科医療従事者に必要とされること	〈ケーススタディ〉 ・ 入院患者の情報 ・ 電車の中での会話 ・ ラインの書き込み ・ 学生実習のスケジュール表の貼りだし ・ PDFファイルの共有 ・ 卒業生の名前を出す教師 ・ 臨床実習での身だしなみの意義について	

回	テ ー マ	内 容		
8	医療倫理に関連する規範と法令	・ 歯科衛生士の職業倫理に関する規範 ・ 歯科衛生士の倫理綱領		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学（医歯薬出版株式会社） 事例で学ぶ歯科衛生士の倫理綱領		期末試験	100.0%	【授業準備】 事前課題の検討： 提示された事例（ケース）について、「自分ならどうするか」の第一印象をメモして講義に臨む。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保存修復学		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		細川育子
授 業 の 概 要				
1. 歯の保存療法の種類について 2. 保存修復について 3. 保存修復における歯科衛生士の役割について				
授業終了時の到達目標				
1. 歯の保存療法について理解する。 2. 保存修復学における疾患の成り立ちと治療法について理解する。 3. 保存修復における歯科衛生士の役割について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 歯の保存療法の種類 2. 口腔検査		1. 歯の保存療法の種類 1) 歯の保存療法と歯科保存学 2) 対象となる疾患 2. 口腔検査 1) 口腔検査の基礎知識と前準備 2) 医療面接 3) 現症	
2～4	3. 保存修復の概要		1) 保存修復学とは 2) 窩洞と保存修復治療 3) 保存修復治療の概要 4) 保存修復治療の準備 5) 歯の切削、窩洞形成 6) 歯髄の保護 7) 保存修復法の種類	
5～6	4. 直接法修復		1) コンポジットレジン修復 2) セメント修復	
7	5. 間接法修復 6. 補修修復 7. 漂白		1) インレー及びアンレー修復 2) ベニア修復 3) 合着材および接着材 1) 補修修復の適応症と術式 1) 歯の着色・変色の原因と処置法 2) 歯の漂白法の種類と特徴	
8	8. 保存修復における歯科衛生士の役割 9. 期末試験		1) 材料・薬物の管理 2) 患者への説明と指導 1) 期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 授業用プリント			期末試験	100.0%
				【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯内療法学	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		木村智子
授 業 の 概 要			
歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴や病態、診査・治療・予防法および治療に必要な器具・材料について解説する。			
授業終了時の到達目標			
歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解できる。 それらの疾患を認識するための診査法を理解できる。 各種の治療・予防法について、意義、術式、術後経過についての知識を修得し、患者に説明できる。 治療に用いる器具・材料を理解し、診療補助を行うことができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する			
回	テ ー マ	内 容	
1	歯内療法領域の主な疾患	象牙質知覚過敏症、歯髄炎、根尖性歯周組織疾患の原因、症状	
2	歯髄保存療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法の適応症と術式、使用薬剤 各種治療法における診療補助	
3	歯髄の除去療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	歯髄切断法、抜髄法の適応症と術式、使用器具・薬剤 各種治療法における診療補助	
4	根管治療、根管充填 歯内療法における歯科衛生士の役割	根管治療の術式、使用器具および薬剤 根管充填の時期、使用器具および材料 各種治療法における診療補助	
5	外科的歯内療法 歯内療法における歯科衛生士の役割	膿瘍切開法、根尖搔把法、根尖切除法、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、再植法、移植法、 各種治療法における診療補助	
6	歯の外傷 歯内療法における歯科衛生士の役割	破折性の外傷、脱臼性の外傷、歯の保存液 各種治療法における診療補助	
7	歯内療法における安全対策 歯のホワイトニング 歯内療法における歯科衛生士の役割	器具の根管破折、根管壁穿孔、皮下気腫、器具の誤嚥、皮膚・衣服汚染の対処 ウォーキングブリーチ法、オフィスブリーチ法、ホームブリーチ法 各種治療法における診療補助	
8	まとめ 後期末試験	まとめ 後期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法		期末試験	100.0%
			【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯周療法学	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		二宮雅美
授 業 の 概 要			
歯周病の発症原因と病態を理解するとともに、それらの予防法や治療法について学習し、歯科衛生士としての役割を把握する。			
授業終了時の到達目標			
1. 歯周組織の構造と機能について理解する。 2. 歯周病の種類および臨床像を理解する。 3. 歯周病の危険因子（リスクファクター）を説明できる。 4. 歯周病と全身疾患との関係を説明できる。 5. 歯周病の診査法と評価法を理解する。 6. 歯周病の治療計画の立案を理解する。 7. 歯周基本治療および歯周外科治療を理解する。 8. メンテナンスの意義や歯科衛生士の役割を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
授業で行った箇所の復習・次回の予習			
回	テ ー マ	内 容	
1	1. 歯周病学概論 2. 正常な歯周組織の構造と機能	歯周病の有病状況・歯周病学を学習することの意義 歯肉、歯槽骨、セメント質、歯根膜の理解	
2	歯周病の分類と原因、歯周医学 歯周治療の進め方と検査	歯周病の治療の標準的な進め方 歯周組織検査、咬合検査、X線写真による検査、評価法	
3	歯周基本治療	歯周基本治療の目的と分類、内容（TBI/スケーリング・ルートプレーニング）	
4	歯周外科治療	歯周外科治療の目的と分類、器材、介助の内容	
5	歯周治療としての口腔機能回復治療	歯の固定法、歯周一矯正治療、インプラント治療など	
6	メンテナンス・SPT	メンテナンス・SPTの違い、その重要性和意義 メンテナンス・SPTの具体的な内容	
7	歯周治療における歯科口腔衛生士の役割	歯周組織検査や治療時の補助、患者様の全身疾患の把握、リスクファクターに対する指導、TBI、スケーリング・ルートプレーニング 歯周外科治療の準備や介助、リハビリテーションとメンテナンス、SPT、器具・器材の管理、患者へのわかりやすい説明の仕方	
8	期末試験	これまでに行った歯周病学の最終試験を行い理解度を評価する	
教科書・教材		評価基準	評価率
歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版（医歯薬出版株式会社） 歯科衛生士講座 歯周病学 第3版（永末書店）		期末試験 確認テスト	80.0% 20.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
歯科補綴学		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義	
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位（15時間）		必須		市川哲夫 永尾 寛 渡邊 恵 藤本けい子	
授 業 の 概 要					
1. 歯の欠損に伴う障害がどのようなものを学習する。 2. 歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について学習する。					
授業終了時の到達目標					
1. 歯の欠損に伴う障害を説明できる。 2. 歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について理解する。					
実務経験有無		実務経験内容			
時間外に必要な学修					
授業で行った箇所の復習と次回の予習					
回	テ ー マ		内 容		
1～ 2	Ⅰ編 補綴歯科治療に関する基礎知識		1章 歯科補綴の概要 2章 補綴歯科治療の基礎知識		
3～ 8	Ⅱ編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割		1章 補綴歯科治療における検査 2章 クラウン・ブリッジ治療 3章 有床義歯治療 4章 インプラント治療 5章 特殊な口腔内装置を用いる治療 6章 補綴歯科治療における器材		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版（医歯薬出版）			期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔外科学		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		江口 覚
授 業 の 概 要				
顎・口腔領域の疾患および、全身疾患との関連、その治療法について衛生士として必要な知識をみにつける。				
授業終了時の到達目標				
①顎口腔領域の疾患の特徴、診断法、治療法を説明できる。 ②口腔病変と全身疾患の関係を概説できる。 ③清潔不潔を理解し院内感染防止対策を説明できる。 ④口腔外科小手術を理解し、器財や手順を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科 2. 顎・口腔領域の先天異常と発育異常		1. ①口腔外科とは ②顎・口腔領域の特徴と主な疾患 ③口腔病変と全身疾患 ④基礎疾患と歯科治療 2. ①歯の発育異常 ②口腔軟組織野先天異常と発育異常 ③口唇裂・口蓋裂 ④顎の先天異常と発育異常	
2	3. 顎・口腔領域の損傷と機能障害		①軟組織の損傷 ②歯および歯槽の外傷 ③顎骨骨折 ④顎関節疾患	
3	4. 口腔粘膜の疾患		①水疱形成を主徴とする疾患 ②紅斑およびびらんを主徴とする疾患 ③潰瘍を主徴とする疾患④白斑を主徴とする疾患 ⑤色素沈着を主徴とする疾患 ⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患 ⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患 ⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患	
4	5. 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6. 顎・口腔領域の嚢胞性疾患		5. ①炎症とは ②歯周組織の炎症 ③顎骨の炎症 ④顎骨周囲組織の炎症 6. ①嚢胞とは ②顎骨に発生する嚢胞 ③軟組織に発生する嚢胞	
5	7. 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患		①腫瘍とは ②腫瘍の分類 ③歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍 ④腫瘍類似疾患	
6	8. 唾液腺疾患		①唾液と唾液腺 ②炎症性唾液腺疾患 ③唾石症 ④唾液分泌異常 ⑤唾液腺腫瘍	
7	9. 口腔領域の神経疾患		①顎口腔の知覚神経と運動神経 ②神経痛 ③神経麻痺 ④神経痙攣	
8	10. 口腔外科診療の実際		①口腔外科治療の流れ ②診察と診断 ③清潔と不潔 ④創傷の処置 ⑤口腔外科小手術⑥止血処置 ⑦縫合処置	
教科書・教材			評価基準	評価率
顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）			期末試験 確認テスト	90.0% 10.0%
				【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科麻酔学	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		江口 覚
授 業 の 概 要			
すべての患者が安全で快適な歯科治療を受けられるようになるために、歯科麻酔に関する基本的な知識を身につける			
授業終了時の到達目標			
①全身状態の評価に必要な基本的事項を説明できる。 ②局所麻酔法について説明できる。 ③精神鎮静法について説明できる。 ④全身麻酔の概要を説明できる。 ⑤歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する			
回	テ ー マ	内 容	
1	1. 歯科治療における歯科麻酔と患者管理	①歯科治療における歯科麻酔の立場 ②全身状態の評価と患者管理	
2～3	2. 局所麻酔	①局所麻酔法 ②局所麻酔薬 ③血管収縮薬 ④局所麻酔に使用する機材 ⑤局所麻酔時の局所的偶発症	
4～5	3. 精神鎮静法	①吸入鎮静法 ②静脈内鎮静法 ③精神鎮静法に際する一般的注意点	
6～7	4. 全身麻酔	①術前管理 ②全身麻酔法 ③術中管理 ④麻酔覚醒と抜管 ⑤術後管理 ⑥全身麻酔下歯科治療と日帰り全身麻酔	
8	5. 救急蘇生法	①歯科治療時の全身的偶発症 ②酸素療法 ③静脈確保 ④一次救命処置	
教科書・教材		評価基準	評価率
顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）		期末試験 確認テスト	90.0% 10.0%
			【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
矯正歯科学	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）	必須		久保典子
授 業 の 概 要			
歯科矯正学の定義が説明できる 不正咬合における障害を説明できる 矯正歯科治療の一般的なプロセスを説明できる			
授業終了時の到達目標			
1. 矯正歯科治療の歴史をたどりながら歯科矯正学の定義や知識と概念を学習する 2. 治療の必要性ベネフィットとリスク、チーム医療、歯科衛生士の役割について 3. 不正咬合の定義と特徴、治療の流れについて学習する			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
授業で行った箇所の復習、次回の予習			
回	テ ー マ	内 容	
1	1. 矯正歯科治療の概要	1) 歯科矯正学と矯正歯科治療の目的 2) 歯科矯正学と矯正歯科治療の必要性 3) チーム医療と歯科衛生士の役割 3) 矯正歯科治療のベネフィットとリスク 4) 矯正歯科治療とチーム医療	
2	2. 成長発育、身体の成長発育	1) 成長発育の四ツ型 2) 全身の一般的な成長発育過程について 3) 骨の成長 4) 上下顎の成長発育、歯の交換の特徴 5) 咀嚼、嚥下、発音機能の発育	
3	3. 正常咬合と不正咬合	1) 正常咬合の概念 2) Angleの分類 不正咬合の分類	
4	不正咬合の原因	先天的原因と後天的原因 不正咬合の分類	
5	矯正歯科治療における生体力学と生体反応	矯正力の種類 歯の移動様式	
6	矯正歯科治療の実際	検査と診断 矯正歯科治療と装置	
7	矯正治療と歯科治療の実際	矯正歯科治療に伴うリスクとその対応 器材と使用の手順	
8	8. まとめ・テスト	まとめ・テスト	
教科書・教材		評価基準	評価率
歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 歯科矯正学（医歯薬出版）		期末試験	100.0%
			【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児歯科学		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（15時間）		必須		鈴木結加里
授 業 の 概 要				
成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘るQOLを支えることを認識し、顎口腔領域の疾患や異常の予防、診察・検査、診断、治療および治療の介助方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。				
授業終了時の到達目標				
胎児期から成人に至るまでの定型発達児、障害児、有病児の身体的成長、精神的・心理的発達について理解し、健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解するとともに、診療介助の方法を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
配布プリントを含めた講義内容の予習・復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	小児歯科診療の基礎知識		小児歯科学概論 心身の発達 小児の生理的特長	
2	小児歯科診療の基礎知識		顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常	
3	小児歯科診療の基礎知識		小児の歯科疾患 小児虐待	
4	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割		小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者と対応法	
5	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割		小児歯科における診察体系	
6	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割		障害児の歯科治療 う蝕予防	
7	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割		小児の口腔健康管理 歯科診療室と機材の管理	
8	期末テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 小児歯科第4版 医歯薬出版		期末試験	100.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）		必須		井口和美
授 業 の 概 要				
歯科予防処置の概念、法的位置づけを学び、健康増進の目的を理解する。 人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕・歯周疾患予防についての専門的知識・技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
歯周組織の名称・役割・特徴を理解し説明ができる。 正常な歯周組織と、口腔機能について説明ができる。 沈着物、付着物の違いを理解し説明ができる。 シクルスケーラーの基本操作を理解し、沈着物物の除去ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として10年の勤務経験 これまでの歯科衛生士資格、業務経験を活かし、歯周病・う蝕予防についての講義・実習授業を行う。		
時間外に必要な学修				
次の授業内容をふまえて、テキストを予習をする				
回	テ ー マ		内 容	
1	歯科予防処置・保健指導の概要		歯科予防処置・歯科保健指導の必要性 歯科予防処置の定義と法的な位置づけ	
2	歯周組織および構造 予防の概念		歯周組織の構造と名称	
3	う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物の		1. ペリクル 2. マテリアルバ 3. 食物残渣 4. プラーク 5. 歯石プラークの形成過程について	
4	う蝕と歯周病の基礎知識 歯石の特徴 色素沈着（ステイン） 舌苔		歯石の特徴 1）沈着部位 2）歯石の種類 3）歯石の特徴） 色素沈着（ステイン） 1）外来性色素沈着 2）内因性の色素沈着 舌苔 舌苔の成分と口臭	
5	歯冠と歯根の形態		永久歯の特徴 乳歯の特徴 歯の萌出順序	
6	歯周病 歯周歯の分類 歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴		歯周病 歯周歯の分類 歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴	
7～ 8	歯周病 歯肉炎・歯周炎の進行プロセス 歯周病の原因		1 歯肉炎・歯周炎の進行プロセス 2 歯周病の原因 1）口腔内細菌 2）宿主 ①局所性修飾因子 ②全身性修飾因子 3）環境因子 3 歯周病が影響を与える疾患	

回	テ ー マ	内 容
9	①手用スケーラー基礎 シッケルスケーラー	1) 構成 2) 基本設定 3) 把持法 4) 固定 5) 操作法 操作運動
10	シッケルスケーラー操作①	基礎石膏上での操作 (手指屈伸・前腕回転・手根関節運動) ファントム実習 (姿勢と高さ・マキシラアングル・ポジション ・挿入・操作幅)
11	シッケルスケーラー操作②	ファントム実習 歯石の除去
12～ 13	シッケルスケーラー操作③	ファントム実習 歯石の除去
14	患者からの情報収集	1) 情報収集の目的 2) 情報収集の項目
15～ 16	口腔内観察実習	歯牙本数 歯肉状態 沈着物 補綴物 う蝕の確認
17～ 18	相互実習 ① シッケルスケーラー	沈着物除去 ①赤染め⇒沈着物除去
19	歯周組織検査の種類 歯科器具の名称と役割 プロービングとは	Millerの分類 Linde&Nyman プロービング (4点法 6点法) プロービングの役割、操作方法

回	テ ー マ	内 容		
20	歯周組織検査 プロービング操作①	持ち方、操作法、挿入法		
21	歯周組織検査 プロービング操作②	ポジション、マキシラアングル		
22	歯周組織検査 プロービング操作確認試験	1. ポジショニングの確認試験 2. 4点法での操作・記入		
23	確認テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅱ		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）		必須		井口和美
授 業 の 概 要				
歯科予防処置の概念、法的位置づけを学び、健康増進の目的を理解する。 人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕・歯周疾患予防についての専門的知識・技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
科予防処置法の種類・特徴を理解し説明ができる。（フッ化物・小窩裂溝填塞） フッ化ジアンミン銀の取り扱いを理解し説明ができる。 歯周組織検査の目的を理解し、基本的な操作ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として10年の勤務経験 これまでの歯科衛生士資格、業務経験を活かし、歯周病・う蝕予防についての講義・実習授業を行う。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容をふまえて、テキストを予習をする				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	歯周組織検査 ブローピング操作確認		1. ポジショニングの確認試験 2. 4点法での操作・記入	
3～5	ブローピング相互実習 ①		互実習 誘導、介助、術者（4・6点法）	
6	う蝕予防処置法 フッ化物 ①		フッ化物の種類 特徴 取扱い	
7	う蝕予防処置法 フッ化物 ②		急性中毒 慢性中毒	
8	う蝕予防処置法 フッ化物 ③		フッ化物 塗布方法 手順	
9～11	フッ化物 相互実習		フッ化物塗布演習	
12	う蝕予防処置法 小窩裂溝填塞法①		小窩裂溝填塞法 目的 特徴	
13	う蝕予防処置法 小窩裂溝填塞法②		小窩裂溝填塞法 方法と手順	
14～15	う蝕予防諸理論 フッ化ジアンミン銀		フッ化ジアンミン銀 使用用途 取り扱いについて	
16～17	超音波スケーラーの取り扱い		超音波スケーラーの使用の目的、特徴、適応症、禁忌症	
18	超音波パワー（機械的）スケーラー		超音波スケーラーの原理と取り扱い エアスケーラーの原理と取り扱いスケーラー	
19	超音波スケーラーの取り扱い		顎模型 下顎操作実習	
20～21	超音波スケーラーの取り扱い		顎模型 上顎操作実習	
22	確認テスト			
23	まとめ試験			
教科書・教材			評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論			期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2026／前期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		井口和美
授 業 の 概 要				
口腔領域における健康教育の意義や重要性を理解し、その役割を担う専門職としての基礎的能力を身につける。 口腔疾患の予防・抑制手段としての口腔清掃の方法、清掃用具と使用法、清掃による効果、清掃状況の評価方法に 対する知識や技術について学習する。				
授業終了時の到達目標				
歯科保健指導の目的を理解している。 歯科保健指導の対象となる各年齢層の特徴を理解し、症例別の歯口清掃用具・歯口清掃法が選択できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	歯科保健指導の基礎知識		1. 永久歯の歯牙番号・名称について 2. 乳歯の歯牙番号・名称について 3. 上顎、下顎、左側、右側について 4. FDI方式 歯式について	
2	歯科保健指導論の概要		1. 歯科保健指導の必要性 2. 歯科保健指導の定義 3. 歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 4. 健康の概念	
3	口腔の基礎知識		1. 口腔・口腔周囲の構造 2. 歯周組織 3. 歯冠と歯根の形態 4. 口腔の機能	
4	う蝕の基礎知識 食生活指導のための基礎知識		う蝕の基礎知識 1. う蝕とは 2. う蝕の分類 3. う蝕の原因 国民の健康と栄養の現状 1. わが国における国民の健康課題 2. エネルギー・栄養素・食品摂取の変遷 3. 近年の食生活の特徴 4. 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み	
5	食生活指導のための基礎知識		食品とう蝕誘発性 1. う蝕は食生活習慣病 2. ショ糖とう蝕の関連性 3. 食品のう蝕誘発性 4. 代用甘味料 5. う蝕予防のための食品の摂取方法	
6	食生活指導のための基礎知識		1. 酸蝕症と食生活 2. 咀嚼と食品 3. 特別用途食品と保健機能食品	

回	テ ー マ	内 容		
7	保健行動支援のための基礎知識 歯科衛生アセスメントとしての情報収集 と情報整理	行動変容に関連する理論 1. 健康信念モデル 2. 社会的認知理論（自己効力感） 3. 変化のステージモデル 4. ストレスとコーピング 5. 動機づけ面接 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 1. 患者からの情報収集 2. 全身の健康状態の把握 3. 認知機能の把握 4. 生活環境と生活背景の把握 5. 生活習慣の把握		
8	校内歯科保健指導の事前準備	原稿とチャート作り 1. 歯と歯周組織の構造 2. むし歯の進行 3. むし歯の発症 4. 6つの食品群 5. 三大好発部位		
9	歯垢染色剤について	1. 歯垢染色法の種類と方法 2. 歯垢染色剤の取り扱い		
10	分析のためのデータ	1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標		
11	分析のためのデータ	1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標		
12	分析のためのデータ	1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標		
13	分析のためのデータ	1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標		
14	分析のためのデータ	問題プリント		
15	分析のためのデータ	前期末まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】		期末試験 確認テスト	90.0% 10.0%	準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅱ		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	実習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		井口和美
授 業 の 概 要				
口腔領域における健康教育の意義や重要性を理解し、その役割を担う専門職としての基礎的能力を身につける。 口腔疾患の予防・抑制手段としての口腔清掃の方法、清掃用具と使用法、清掃による効果、清掃状況の評価方法に 対する知識や技術について学習する。				
授業終了時の到達目標				
歯科保健指導の目的を理解している。 歯科保健指導の対象となる各年齢層の特徴を理解し、症例別の歯口清掃用具・歯口清掃法が選択できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導		歯ブラシの種類・規格・管理について 1) 手用歯ブラシ 2) 電動歯ブラシ 3) 音波歯ブラシ 4) 超音波歯ブラシ	
2	歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導		1. その他の清掃方法 1) デンタルフロス 2) 歯間ブラシ 3) タフトブラシ 4) 粘膜ブラシ 5) スポンジブラシ 6) 舌ブラシ 7) 義歯用ブラシ 8) 口腔ケア用具 2. 洗口液・洗口剤 1) 種類 2) 基本的な使用法 3) その他の使用法 3. 保湿剤について 1) 種類 2) 基本的な使用法 3) その他の使用法	
3	歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導		1. ブラッシング法 1) 歯ブラシの毛先を使った方法 2) 歯ブラシの脇腹を使った方法 2. 歯磨剤について 1) 歯磨剤の成分による分類 2) フッ化物配合歯磨剤の特徴	
4	校内歯科保健指導の事前準備		原稿づくり 1. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 2. ブラッシング法（スクラビング法とバス法） 3. フッ化物配合歯磨剤の使用法について 4. 歯ブラシの交換時期について	
5	演習 ・ブラッシング方法とデンタルフロスの 操作方法について ・自分の口腔内の観察確認		1. 模型を使用してブラッシング方法とデンタルフロスの操作方法 を習得する。 2. 自分自身の口腔内を観察する。	
6～ 7	赤染め相互実習		赤染め相互実習	

回	テ　　ー　　マ	内　　　　　　容		
8	校内歯科保健指導の準備	1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. パス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について		
9	校内歯科保健指導の準備	1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. パス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について		
10	校内歯科保健指導の準備	1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. パス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について		
11	校内歯科保健指導の準備	1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. パス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について		
12	校内歯科保健指導の実施	校内歯科保健指導の実施 1年次の総まとめとして今ある知識を分かりやすく相手に伝える力を身につける。		
13	幼児対象集団指導の準備	幼児対象集団指導の準備		
14	幼児対象集団指導の準備	幼児対象集団指導の準備		
15	確認テスト	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】		期末試験 確認テスト	90.0% 10.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅰ	歯科衛生士学科／1年	2026／前期	実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）	必須		四宮直子
授 業 の 概 要			
1. 歯科診療補助の概要 ①歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけ ②診療補助業務と他の医療職種			
2. 医療安全と感染予防			
3. 歯科診療における基礎知識 ①歯科診療室の基礎知識 ②歯科診療所における受診の流れ			
4. 歯科診療補助における基礎知識 ①共同動作			
4. 歯科診療で使用する歯科材料 ①印象採得			
授業終了時の到達目標			
1. 歯科衛生士の行う歯科診療の補助を説明できる			
2. 他の医療職種が行う診療の補助業務を説明できる			
3. 歯科診療における医療安全と対策を説明できる			
4. 歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる			
5. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる			
6. 感染事故時の対応を判断することができる			
7. 手指消毒やグローブの着脱が実施できる			
8. 歯科診療室の環境、設備について説明できる			
9. 歯科診療所における患者対応を説明できる			
10. 歯科薬品や材料の適切な管理を説明できる			
11. 共同動作の概念を述べることができる			
12. 適切なポジショニングを実施できる			
13. 器具の取り扱いや受け渡しを実施できる			
14. フォーハンドテクニックの基本動作を実施できる			
15. バキュームの基本動作を実施できる			
16. アルジネート印象材の特徴、用途を説明できる			
17. アルジネート印象材の練和と管理を実施できる			
18. 印象採得（概形印象）とその対応を実施できる			
実務経験有無		実務経験内容	
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における診療環境のマネジメントやアシスタントワークを教材として、歯科医療の現場で必要とされる歯科衛生士の役割を指導する。	
時間外に必要な学修			
本授業は国家試験出題基準に準拠しているため、毎回の講義内容が次回の理解に直結します。 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。 前回の授業で使ったテキストやプリントをを見返し、不明点を明確にした状態で次回の授業に臨むこと。			
回	テ ー マ	内 容	
1	歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけ 診療補助業務と他の医療職種	■ 歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけ 1. 歯科衛生士の業務と歯科診療補助 2. 歯科衛生実践の考え方 3. 診療の補助の範囲に関する法的な変化 ■ 診療補助業務と他の医療職種 1. 看護師の行う診療の補助 2. その他の医療関係職種が行う診療の補助	
2～3	歯科診療室の基礎知識	1. 歯科診療室の環境 2. 歯科診療室の構造と設備 3. 歯科用チェアユニット 4. その他の設備 5. 特殊な設備がある歯科診療室（手術室）	

回	テ ー マ	内 容
4	歯科診療所における受診の流れ	1. 歯科診療所における患者対応の基本 2. 特別な配慮が必要な患者対応
5	身だしなみの基本 患者誘導	1. 身だしなみの基本 2. 患者誘導
6	薬品（薬物）・歯科材料の管理	1. 基礎的知識 2. 取り扱いの実際
7	感染予防	1. 手指衛生（手指消毒） 2. グローブ装着・脱着の手順 ※ラテックスアレルギーについて
8	医療安全	1. 医療安全 2. 歯科診療での補助業務 3. 医療法と医療安全対策 4. 救急処置 5. 救命処置のアルゴリズム
9	共同動作	・ 共同動作の概念 ・ 術者・補助者・患者のポジショニング
10	共同動作	・ ミラーテクニック ・ ライティング
11	共同動作	バキュームテクニック
12	共同動作	・ スリーウェイシリンジテクニック ・ フォーハンデッドデンティストリー ・ バキュームテクニック
13	共同動作	器具の受け渡し
14～ 15	共同動作（相互実習）	共同動作
16	感染予防	1. 歯科医療における感染症の概念 2. 歯科医療における感染予防対策
17	印象採得	基礎知識

回	テ ー マ	内 容		
18	アルジネート印象材 アルジネート印象材練和法	アルジネート印象材の特徴 アルジネート印象材の種類 使用する器材の準備 印象材の計量 練和法		
19	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 種類 2. 使用する器材の準備 3. 印象材の計量 4. 練和法		
20	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 使用する器材の準備 2. 印象材の計量 3. 練和法 4. トレーへの盛り付け		
21～ 22	アルジネート印象材による概形印象採得	1. 印象採得 2. 印象体の保管 3. トレーの後始末		
23	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		確認テスト	10.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）		実習・実技評価	20.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）		期末試験	70.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅱ	歯科衛生士学科／1年	2026／後期	実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1.50単位（45時間）	必須		四宮直子

授 業 の 概 要

1. 感染予防
 - ①滅菌・消毒・洗浄
 - ②医療廃棄物の取り扱い
2. 歯科診療で扱う歯科材料
 - ①印象採得
 - ②模型の作製
 - ③合着・接着の補助
 - ④成形歯冠修復の補助

授業終了時の到達目標

1. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。
2. 消毒薬の特徴と用途について説明できる。
3. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。
4. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる。
5. 各種印象材の取り扱い、管理を実施できる。
6. 印象採得とその対応を実施できる。
7. 歯科用石膏の特徴、種類、用途を説明できる。
8. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる。
9. 合着材や接着材の特徴、種類、用途を説明できる。
10. 合着材や接着材の練和を実施できる。
11. 成形歯冠修復材の種類と取り扱いを説明できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における診療環境のマネジメントやアシスタントワークを教材として、歯科医療の現場で必要とされる歯科衛生士の役割を指導する。

時間外に必要な学修

本授業は国家試験出題基準に準拠しているため、毎回の講義内容が次回理解に直結します。
 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。
 前回の授業で使用了テキストやプリントをを見返し、不明点を明確にした状態で次回の授業に臨むこと。

回	テ ー マ	内 容
1～2	寒天印象採得時の補助 合成ゴム質印象の補助 その他の印象材の取り扱い	1. 寒天印象材の準備 2. 寒天-アルジネート連合印象 3. シリコンゴム印象材による精密印象採得の補助 4. 個人トレー、個歯トレーを使用した精密印象 5. モデリングコンパウンド 6. 酸化亜鉛ユージノール印象材 7. デジタル印象
3～4	アルジネート印象材による概形印象採得 （相互実習）	概形印象採得
5～6	感染予防	滅菌と消毒
7～8	衛生材料	1. 種類 2. 作製 3. 取り扱い
9	医療廃棄物の取り扱い	1. 廃棄物の概要 2. 歯科診療室で発生する廃棄物
10～12	模型の作製	1. 歯科用石膏の基礎知識 2. 歯科用石膏の練和 3. 歯科用石膏の管理方法

回	テ ー マ	内 容		
13～ 16	合着・接着の補助	ポリカルボキシレートセメント、グラスアイオノマーセメント、 接着性レジンセメント、リン酸亜鉛セメント 1. 合着材・接着材の基礎知識 2. 練和法 3. 合着・接着の際に患者に説明しておくべき事項		
17～ 18	成形歯冠修復の補助	1. 基礎知識 2. 成形歯冠修復材の種類 3. コンポジットレジンの取り扱い 4. グラスアイオノマーセメントの取り扱い		
19～ 20	アルジネート印象材による概形印象採得 (相互実習)	概形印象採得		
21	共同動作（相互実習）	共同動作		
22	合着材・接着材の練和	セメント練和		
23	トレーセッティング	1. 保存修復用器材 2. 歯内療法用器材 3. 歯科補綴用器材 4. 口腔外科小手術用器材		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		確認テスト	10.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）		実習・実技評価	20.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）		期末試験	70.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合学習Ⅰ		歯科衛生士学科／1年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		橋本瑞希
授 業 の 概 要				
臨床実習前の総合学習				
授業終了時の到達目標				
1. 患者対応 医療面接の内容を理解する 2. 治療の流れを理解し、準備ができる 3. 治療の流れに沿った、超音波スケーラーが使用できる 4. 歯周組織について理解し、歯面研磨ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
授業で使ったテキストやプリントを用いて復習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	相互実習前のオリテ		1. 衛生的手洗い	
2～4	口腔内観察		口腔内 沈着物・付着物の確認	
5～7	シックルスケーラー相互実習		シックルスケーラーを使って、沈着物の除去	
8～10	プロービング相互実習		プロービング6点法	
11～13	歯面研磨・歯面清掃法		歯面研磨（ポリッシング）実習	
14	超音波スケーラー操作方法		基本操作	
15	臨床実習前 確認試験			
教科書・教材			評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科診療補助論			期末試験	100.0%
				その他